

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：湘南北部療育センター	種別：児童発達支援事業・放課後等デイサービス	
代表者氏名：木島直人	定員（利用人数）：15名 （児童発達支援と放課後等デイサービス合わせて）	
所在地：〒252-0813 藤沢市亀井野2-20-10		
TEL：0466-90-0808		
ホームページ：http://www.tomoni.or.jp/hokubu.c/index.html		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2008/4/1		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 県央福祉会		
職員数	常勤職員： 5名	非常勤職員： 9名
専門職員	（専門職の名称）	名
	臨床心理士	保育士
	言語聴覚士	社会福祉士
施設・設備の概要	（居室数）事務室・指導訓練室・準備室・相談室・湯沸かし室 ・相談事業室	
	（設備等）	

③理念・基本方針

【法人理念】

- I. ソーシャルインクルージョン（共生社会）を目指します。
- II. 先駆的で開拓的な事業を展開します。

【利用者支援の基本方針】

- 一、利用者さんや家庭の困りごとに進んで向き合います。
- 一、最高の専門性を追求します。アセスメントとモニタリングを定期的実施、療育や支援の
繰り返しを実施します。
- 一、権利擁護と利用者さん主体の療育や支援に努めます。

【社会的責任の基本方針】

- 一、社会環境やニーズの変化を先取りした事業の展開を図ります。
- 一、地域や利用者さんが求めるサービスを提供します。

【経営とマネジメントの基本方針】

- 一、経営を担える人材、新たな価値を創造する人材の育成を図ります。
- 一、事業活動収支状況を全職員で確認し、経営の大切さを学びます。

④施設・事業所の特徴的な取組

☆ 構造化のアイデアを取り入れ、利用者さんに分かりやすい指示の提示を行います。また、発達段階に合わせ、グループと個別の併用などを検討し、ご本人が楽しく「できた」「分かる」ことを大切に活動ができるように支援を展開します。

☆ご本人を中心にご家庭は、勿論、他期間との連携を大切に、楽しく療育に参加できるように情報を共有します。また、療育機関として数年後先のご本人・ご家族のスキルに繋がることをイメージしながら支援・助言を大切にします。

☆全職員がそれぞれの視点・個性を出しながら湘南北部療育センターの良さを最大限に地域にアピールし、唯一無二の魅力ある事業所を目指します。そのためにも職員一人ひとりがお互いを助け合い、毎日笑顔で子どもたちに接する事ができる事業所づくりをします。

☆事業所内のアセスメントを統一し、誰もが見やすく、分かりやすいアセスメント作りをし、個別支援計画の作成、見直しに活用していきます。

☆各クラスだけでなく、クラスを超えての情報交換、新しいアイデアを出し合える職場環境を作ります。

☆職員会議時には、事業所内研修会・ケース会議を定期的を実施し、利用者さんに対する理解・福祉制度・特性理解などについて全体で学べる機会を作ります。

☆利用児童の発達状況に応じてリモートや動画配信を使った取り組みを模索します。

☆保護者への相談や研修をオンラインで実施します。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年4月27日（契約日） ～ 令和3年9月30日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（前回：2018年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)発達状況・発達過程に合わせたエンパワメント支援

事業所には、一人ひとり異なる障害を持つ未就学児から18歳までの児童・生徒が利用しています。本人や家族の意向・心身の状況・していること/できること・本人をとりまく様々な環境など、子どもの発達状況や発達過程を把握し、個々のプロフィール、アセスメントシートを通して、臨床心理士、言語聴覚士、社会福祉士、保育士、児童指導員など、専門性を活かした職員がチームとなり、コミュニケーションや社会生活のスキルを高める個別支援を行っています。個別の支援計画は、本人や家族の目指す生活スタイルに向けて作成しますが、特に本人のエンパワメントを促進するモニタリング（必要な支援）を重ねながら一人ひとりのニーズに即した支援に努めています。事業所ではさらに専門性を高め、支援の幅を広げて行きたいとしています。

2) 次世代の福祉人材の育成

積極的に実習生の受け入れを行っています。養成校の学生達が年間を通して机上での学習に加え、事業所での実践的な学びを深めています。知的障害児・発達障害児の支援施設として専門的なスキルが求められる事業所では、実習生受け入れ体制を入念に整え、取組を行っています。養成校では、実習1ヶ月前から障害について理解を深め、事業所では実習するプログラムや注意事項など、オリエンテーションを細部に渡って行います。実習生は毎日の実践後、疑問点・改善点などの振り返りを職員と確認し、確実なる実践能力の向上に繋げています。また、実習生を受け入れることで職員自身が一つひとつの支援を言語化して振り返り、職員間での意見交換を重ね、「専門的に支援すること」の意義を改めて確認しています。

◇改善を求められる点

1) 職務分掌の明確化

基本的な組織体制は構築されており、業務の役割分担を文書化していますが、事業所内の職務分掌を明確にできていません。職員全員が運営の全体像を把握し、モチベーションを高めるためにも管理者および職員の職務と責任、所在を明確にした組織構成を整え、半年または年度毎にそれぞれの課題や内容などを具体化させ、単年度の事業計画に繋げていくことが期待されます。

2) 有事を見据えた地域との体制づくり

年に2回大地震を想定した訓練を実施しています。緊急時の退避経路や緊急連絡体制などの整備を継続・見直し・更新する訓練を事業所単独で定期的に行っています。更に建物の耐震性も含め、災害への包括的な対応策として自助・共助・公助の体制を整えることが望まれます。日頃から地元の自治会、消防署などとの連携で実践的な訓練が行なえる体制づくりを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

「発達状況、発達過程に合わせたエンパワメント支援」および「次世代の福祉人材の育成」について高く評価して頂きました。お子さんたち一人ひとりについて専門性を持った職員でチームとして知っていく、そしてご家族や幼稚園保育園、学校など地域の方々へと情報共有、情報発信をしていきたいと思っております。また、実習生の受け入れという形で福祉の分野について知っていただく機会を作っております。引き続き、受け入れを行いながら次世代の福祉人材として活躍できる場を知っていただく機会を設けて参ります。

一方で、改善を求められる点といたしまして、「業務分掌の明確化」および「有事を見据えた地域との体制づくり」をご指摘いただきました。職務につきましては、専門性を活かしながら、それぞれの担当業務および組織としてのシステムの見直し等行って参ります。業務の効率化を図り、よりお子さんやご家族のための時間の確保に取り組んで参ります。また、有事を見据えた地域との体制につきましては、消防署等との定期的な訓練の実施や地域に開かれた場としての機能などの整備を進めて参ります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり